

天塩川下流・留萌川水防連絡協議会
第2回留萌川減災対策部会 議事概要

日時：平成28年6月29日（水）13：35～15：10

会場：北海道開発局 留萌開発建設部 第1会議室

構成員：留萌開発建設部長、旭川地方気象台長、留萌振興局長（代理出席）、留萌市長
オブザーバー：陸上自衛隊（留萌駐屯地）

《議事内容》

- ・ 幹事会の報告
- ・ 留萌川流域の減災対策について、各構成員の現状の取組状況と課題を情報共有
- ・ 各関係機関が行う概ね5年で実施する取組について意見交換を行い確認

《主な意見》

○現状の取組状況等

（留萌開発建設部）

昭和63年洪水の急激な水位上昇を考慮し、避難勧告に着目したタイムラインの精度向上が重要。

（旭川地方気象台）

局地的な集中豪雨における予測は難しい部分があるが、昭和63年洪水当時より予測精度は向上しており、情報の分かりやすさ、出し方などを工夫しタイムラインの精度向上に寄与できると考えている。初動体制を取る際の予測精度向上に取り組みたい。

（留萌開発建設部）

現ハザードマップでは避難経路などが指定されていないが、避難する方向、場所や避難経路の通行止め条件、避難手段、山地の土砂災害の危険を把握することが重要。

○概ね5年で実施する取組

（留萌開発建設部）

昭和63年洪水から20年以上経過しており、住民の記憶も風化していくため、住民に洪水の危険等を再認識してもらう啓蒙活動を拡充、検討していく必要がある。

札幌市の地下歩行空間で行われた昭和56年洪水のパネル展では、多くの人が見に来ていた。留萌川においても昭和63年洪水の状況等を伝える機会をつくる必要がある。

(留萌開発建設部)

自分が住んでいる場所と川との距離、地形などを知ることが的確な避難のために重要であり、子供が自分でハザードマップを作るなど避難のために必要なことを学ぶ等も良い取組と思われる。住民への防災教育、講習会なども重要。

(留萌市)

近年、水害が発生していないこともあり、留萌市街地においては水害で避難するという経験が少なく、水害に対する住民意識が低い状況。

昭和63年洪水で浸水した範囲内において、現在は介護施設をはじめとする福祉施設が多く出来ているほか、在宅医療が進む中で寝たきりの方が増加しており、避難における課題となっている。地域の繋がりとなる町内会への説明と理解、町内会単位での状況に応じた防災連絡が重要と思われる。

防災教育は津波、地震が主となっているが、今後は水害に対する住民の危機意識を高める必要があると思われる。

(旭川地方气象台)

地震、津波による災害を主眼においた、防災教育を留萌振興局と取り組んでいる。洪水についても危機意識を高める必要があるため、今後取り組みたい。

(留萌振興局)

旭川地方气象台と同様に洪水についても取組を進めていく必要があると考える。

○今後について

(留萌開発建設部)

本取組はスタートしたばかりであり、今後、具体的な内容の検討等をより進めていく必要がある。

(留萌市)

少子高齢化が進む中で自助、共助、公助を考えるうえで地域的な繋がり、町内会の活動、コミュニケーションが大切。

住民との接点を多く持って、どのような行動、方向性とするのが良いか検討したい。原点に立ち返って訓練等も重ねていきたい。

(旭川地方气象台)

予報精度の向上に努めているが、さらに情報の分かりやすさ、見やすさを考慮のうえ改善に努めていく。

また、気象警報などを発表するような状況では担当の予報官が想定する悪いシナリオを積極的に伝えていくことで、少しでも初動体制の構築に寄与したい。

（留萌振興局）

減災対策、情報の共有、防災教育、訓練などが重要であり、引き続き、ご協力をお願いしたい。

（陸上自衛隊（留萌駐屯地））

日頃より、災害出動等の訓練をしている。関係機関との情報共有が初動対応において重要と認識している。